

公共交通実証実験（デマンド交通）について

1. 目的

地域公共交通計画の策定に向けて、デマンド型交通が犬山市において以下の点に資するか研究するため、実証実験を行う。

- ・ 効率的な新たな公共交通体系（地理的な要因）
 - わん丸君バスに替わる新たな移動手段となりうるか
- ・ 交通弱者（主に高齢者）の利便性向上（人的な要因）
 - メリット・デメリット（わん丸君バスとの比較）を踏まえて、犬山市民に受け入れられるか

メリット

- ・ バス停までの移動がなくなる
- ・ 乗車時間の短縮

デメリット

- ・ 登録・予約の手間
- ・ 費用負担（運賃）の増加 など

2. 実証実験の概要（案）

現時点で想定している概要(案)は以下のとおりです。

電話等で事前に予約した車両を運行する。

(1) 期間	令和5年1月中旬～3月中旬 ※月曜日～金曜日の40日程度（祝日を含む）
(2) 運行時間	午前8時30分～午後3時00分 ※乗車時間内に乗車した利用者が降車するまで運行する
(3) 予約時間	午前8時00分～午後2時00分 ※運行時間の1時間前までに予約 ※利用日の2週間前から予約可能
(4) 車両	乗客定員8名以上の車両 2台
(5) 対象エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今井地区 201世帯 ※世帯数は広報部数より (町内会：四ツ家、中屋敷、祢宜洞、虎熊、石蔵、観音堂、岩穴) ・ 前原台団地 699世帯 (町内会：前原台1～6) ・ 池野地区 117世帯 (町内会：入鹿、神尾) <p style="text-align: right;">裏面へつづく</p>

(5) 対象エリア	<p><対象エリアの選定理由></p> <p>①鉄道駅・民間バス停が付近にない交通不便地域</p> <p>②高齢化率が高い地区（おおむね 30%以上）</p> <p>③観光客の利用が見込まれず、利用が住民限定にできる</p> <p>④わん丸君バスの始発・終点の地区であり、目的地となる施設がない</p>
(6) 乗降場所	<p>各町内で選定した場所（3箇所まで）</p> <p style="text-align: center;">↑↓</p> <p>特定の施設（名鉄犬山駅・総合犬山中央病院・市民健康館）</p>
(7) 登録対象者	<p>今井地区、池野地区（入鹿・神尾）、前原台団地の小学生以上の住民</p> <p>※未成年者は保護者の同意が必要</p> <p>※登録した住民と登録していないその家族等が同乗することは可能だが、料金は 1 人 1 乗車とする。</p>
(8) 運賃	<p>1 人 1 乗車 400 円</p> <p>※障害者手帳等所持者と付添 1 名までは半額</p> <p>※小学生は半額</p> <p>※未就学児は無料</p>
(9) 利用方法	<p>①事前の会員登録（3 日前までに申請）</p> <p>②利用時間の 1 時間前までに電話か We b で申込み （申込み内容：名前、会員番号、利用時間、乗降場所、利用人数）</p> <p>※予約時間によっては相乗りとなる。</p> <p>※申込者が予約した時間に乗降場所にいない場合、10 分経過した場合はキャンセル扱いとする。</p>
(10) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験期間中のわん丸君バス利用者への影響がないようにするため、わん丸君バスの運行は通常どおりとする。 ・予約システムの導入によりデータ収集し、実証実験終了後、データを検証する。 ・運行車両、運転手、オペレーター・システム等を運行事業者が用意する。

3. スケジュール

R 4. 6月 地域公共交通会議にて仕様書の提示

R 4. 7～8月 入札・契約

～ システム準備・地元周知（説明会実施）・登録依頼 など

R 5. 1～3月 実証実験

R 5. 4月 アンケート調査

R 5. 6月 地域公共交通会議にて結果報告

4. 現状における課題（市民アンケート結果より抜粋）

- (1) 高齢者人口の増加が顕著であり、高齢者の移動需要に対応した公共交通サービスを検討する必要がある（買い物や通院等の移動需要に対応した運行サービスの確保・維持）。
- (2) 7つの鉄道駅や岐阜バス、タクシー及び周辺市町のコミュニティバスが運行されており、これらの公共交通相互の連携を高め、利用増進を図る必要がある。
- (3) 地域の高齢化や地形的要因及び移動需要を踏まえた上で、新たなモビリティサービスの導入可能性を検討する必要がある。
- (4) わん丸君バスの便別利用者数は午前9時や11時前後の便の利用が多いことから、利用実態に即した運行サービスを提供する必要がある。
- (5) 車内の利用者アンケート（254人）で「不便に感じること」については、
 - ①「運行本数が少ない」 35.8%
 - ②「到着の遅れ」 13.4%
 - ③「鉄道やバスとの乗り継ぎが悪い」 9.4%
 - ④「ルートが複雑、目的地まで遠回り」 8.7%。

また、土日運行した場合の利用可能性は93.6%（147人）。

そのうち利用が、

「毎週」50.3%（74人）

「月1、2回」40.8%（60人）。

5. 実証実験後の方針

- ①対象エリアにてアンケート調査を実施し、結果を地域公共交通計画に反映させる。
- ②実証実験後、地元が総意としてデマンド交通を望んだ場合、既存の路線型バスの路線を廃止して、そのエリアをデマンド交通に切り替えることを検討する。